



令和3年度

町政執行方針



鹿部町長 盛田 昌彦

令和3年第一回鹿部町議会定例会の開会にあたり、

私の町政執行に対する所信と基本方針を申し上げます。

はじめに、私はこの度の町長選挙において、多くの町民の皆様から温かいご支援、ご厚情をいただき、引き続き町政を担わせていただくことになりました。

このことは、身に余る光栄であると認識している一方で、決して慢心せず、初心を忘れることなく、これまで皆様からいただいた様々な思いを真摯に受け止め、町長として職務を全うしていく所存です。

この4年間、皆様方の絶大なご協力のもと、鹿部新時代を切り拓く、水産や産業振興をはじめ、福祉、子育て、公共交通、エネルギー、防災などの様々な事業や仕組みづくりをスタートしました。

その事業、全てをしつかりとやり抜くことが私の役

割であり、私に課せられた使命だと考えています。

2期目においても、まずは水産業と地元企業を何としても守り抜くために、各種支援事業の継続、充実を図り、改めて福祉とデジタルもまちづくりのご真ん中に置き、子育て負担ゼロへの挑戦や地域公共交通の充実を図りながら、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指します。

また、令和2年度に策定しました「鹿部町産業連携ビジョン」に基づき、A級（永久）グルメ構想の理念のもと、山菜、ジビエ、地熱利用、地元食材による商品開発など、町民全員参加の声掛けのもと、新たな事業、新たな雇用を創出していきたいと考えています。

道の駅を拠点とした観光事業やふるさと納税事業についても、引き続き力を注ぎ、稼ぐ自治体、稼げる地域を意識しながら、生産か

ら消費までの全てを顔の見える「かたち」で繋ぎ、皆で支え合い、地域で「お金」や「ありがとう」がぐるぐると回る、町民一人一人が主役の「地域循環型経済」の構築に挑みます。

漁業振興

はじめに、漁業振興についてですが、漁業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続いています。

基幹産業である漁業の振興には、魅力ある漁業体制づくりが何よりも重要であるため、各種試験事業の規模を拡大しながら、今まで以上に、漁業協同組合など各関係機関との連携を密にし、生産性と漁業所得の向上を目指します。

また、全道的に水産資源

が減少している現状においては、今後も自主的な資源管理など持続可能な漁業、いわゆる「育てる漁業」が必要不可欠であるため、浅

海資源であるナマコやウニ、昆布等について、モニタリングを含めた種苗調査などの取組や各振興事業を支援し、水産資源増大を目指します。特に天然昆布資源は危機的状況が続いており、引き続き、各機関との連携のもと、調査研究を進めるとともに協議会を立ち上げ、地域に合った対策を協議します。

なお、資源の枯渇については、漁船漁業においても同様であり、令和3年度から北海道が11か年計画で噴火湾周辺地区特定漁港漁場整備事業により、魚礁の整備を進めることとなっておりますので、早期完成に向けて要望します。

さらには、漁業者の経営意識の向上や先進的漁業の